



## 大西脳神経外科病院だより 第24号

# ぶれいん

発行日:平成23年12月吉日

発行人:学術図書委員会

発行責任者:大西 英之

編集責任者:吉野 孝広

### 大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

### 大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

### 「質の高い病院づくりのために」

### 12月朝礼より

理事長・院長 大西 英之



今年、2013年4月に開設予定の新病棟建築に向けて毎日のように会議を行い近隣住民の方々への説明会、県や市との交渉、勿論設計に関する話し合いも行い、幾つもの病院を見学しました。建物の構造やレイアウトを見たのですが、別の視点として病院の雰囲気

を観察しました。ある病院に見学に行ったとき非常に挨拶が徹底されている病院があり、きちんと教育されているなど、気持ちが非常に爽やかになりました。

良い病院とは？ということを考えるときに、素早く正確な診断、治療技術や成績、院内のアメニティーの良さなど色々な事が挙げられます。しかしハード面だけではなく、病院の雰囲気が重要だとも思います。

その一つが挨拶です。簡単なことですが挨拶が出来るといえる事は、すべてにおいてきちんと事が成されている裏付けだとも思います。たかが挨拶ですがコミュニケーションはまず挨拶から始まります。声を掛け挨拶をす

るそこから会話がスタートするわけです。

挨拶が出来ないという事はスタートが出来ないという事、他の部分でもきちんとしていないと思います。挨拶というのは自分からするものであって人からされて返すというものではありません。

今年の震災でも多くのボランティアが全国から集まりました。その多くが自発的に参加しています。何故か、やはり自分の心を豊かにするためです。誰かの役に立ててよかった、そんな気持ちが心を成長させていくのではないのでしょうか。同じように自分から挨拶をして会話が弾むと気持ちが豊かになってくる、そこを考えて欲しいと思います。まずは自己の成長のためなのです。

ぜひとも来年はそういう意味で自分から進んで声を掛けるようにして頂きたいと思います。患者さんから、この病院はきちんとしていると思われるように、或いは来客者、関係業者の方からこの病院は気持ちいいと思われるような病院であってほしい、ぜひともなってほしいと思います。私の願いです、来年も心がけて一年を過ごしていきましょう。



## 「病院増築計画に関わって」

事務部長 藤井 健

平成25年春の竣工予定で南側駐車場に病院の増築を計画しています。今年の春以降地域住民の方々や行政へ、増築計画について説明する機会を何度となく経験させていただきました。その中で、印象深いというか、少々大げさに言えば「感動に心揺さぶられる」ことが何度ありました。

病院が隣接する田畑の所有者、近隣にお住まいの方々、周辺事業所等への説明の際にほとんど同じように掛けていただいた言葉は、「大西さんのような病院が地元にあると安心だ」「病院が益々発展し、地域のためにこれからも頑張っ



しい」といったものでした。そのような言葉を掛けていただく度に、心揺さぶられ鳥肌の立つ思いをしてきました。お言葉を有り難いなあとと思うと共に、これまでの10年、院長始めこの病院に関わられてきた多くの先輩方や、陰に日向に支えて下さっている多くの方が、当院にかけてこられた熱い想いに触れる瞬間でもあったのです。

また、開発許可の窓口（市役所）ご担当者とは、今年3月から今日まで何度もやりとりを続けてきました。当初は、「こんな大きな建物がなぜ必要なの

か?」「このフロアは認められない!」との言葉に、「この地域の脳疾患急性期医療を担っていくために絶対必要なんです!」「どれだけ色々なスペースが手狭になっているか見に来て下さい!」と、喧々譁々でした。9月に入り、ご担当者数名が当院の実情を視察に来て下さって以降、情勢は一変しました。その後お電話で、増築を認める方向になった旨の連絡を受けた時には、こみ上げてくるものを抑えきれず、周囲に悟られないよう、担当者にお礼を伝えるのに苦労しました。

これらの経験から、当院のこれまでの実績の重みと地域からの期待の大きさを本当の意味で実感させていただきました。私一人だけの思いで止めておくのは申し訳ないことでしたので、この機会に紹介させていただいた次第です。

増築計画は、病院にとって10年に1度の大事業です。この絶好の機会に職員の一人として関わらせて頂ける幸運をかみしめながら、この大事業に真正面から取り組み、新しい歴史の第一歩を全職員の方で踏み出したいと思っています。



いつも笑顔で対応の小畑さん



次の事務部長は俺だ！香山さん



総務部の皆さんです

## 2012年 診療報酬改定に向けて

事務次長 瀧原 健司



来年4月、診療報酬と介護報酬の改定が同時に行われる予定です。3月の東日本大震災による影響から、日本医師会が診療報酬改定の先送りを求める意見を厚生労働省に申し入れています。現時点では政府・厚生労働省ともに延期等の意向は持っていないと伝えられています。

引き続き諸機関において議論・検討が進められており、当初の予定に従って年内には方向性が示され、来年4月から新報酬が適用される見込みです。

次期診療報酬改定は、全体で0.19%のプラス改定となった前回の改定とは、明らかに社会情勢が異なっています。復興予算編成などにより財政的な制約が強まることが確実視される中、経営環境がどのように変化を遂げるかを早期に予測し、必要な対応策をとることが必要になってきます。

今回の東日本大震災による診療報酬財源への影響などを総合的に推測すると、よくても前回と同様の“極微増”であり、厳しい改定に変わりありません。また、改定率だけでなく、改定される個々の診療報酬点数も気になります。

次回改定のテーマは「在宅」や「連携」などであり、これらは評価されそうです。その代わりに、病院の13:1、15:1や療養などの病床区分で、病床再編などの政策誘導に乗って来ないものに関しては、厳しい改定になる可能性も考えられます。

点数改定への対応としては、単に新設された評価項目や点数変更の内容を把握したり、算定の可否を検討したりするだけではなく、改定の考え方をしっかり理解したうえで今後の方針を定め、その機能と役割に応じた経営戦略を策定することが必要と考えます。

当院において次回の改定を新棟建設の好機とするためにも、医事課では請求漏れ防止策や積極的な請求を行う雰囲気作りを行い、課内はもちろん院内全体に浸透させていきたいと考えております。



8月のオープンホスピタルは瀧原事務次長を中心に各職員が一致団結し大成功にて幕を閉じた。新入職早々の大仕事ながら手腕をいかに発揮できるあたり、さすがこれまでの経歴は伊達じゃない!

年々変わる診療報酬に対応し病院の運営を支える医事課の方々、頭が下がります。



## 秋の院内旅行に行ってきました。

総務課 森脇 士郎



平成23年度職員旅行の企画は、8月頃に総務課でいくつかコースを作って職員の方にアンケートを実施しました。その中で行きたい人の多い3コースを選択し、実施を致しました。その中の宇奈月温泉、黒部トロッコ列車の旅のあれこれのお話です。



10月15日

7時30分定刻に病院集合組12名を乗せて出発、途中大久保駅集合組、神戸住吉集合組を乗せて全員22名遅れもなく、一路富山に向かって出発。そろりとサロンシートでの宴会がスタートしました。本当は大久保駅を出たころからビールで予行演習が始まっていたのですが……。

昼食の加賀に着くころには、病院で積み込んだビールがほとんどなくなり、ワインも数本が空きました。皆さんお酒に強いと感心して見ていると、その中心にいるのは大西院長初め守衛さん3人組65歳オーバーの方がたと看護師さん助手さん数名。強いとは聞いていましたが、底が抜けています。富山市内に着くまで延々サロンバーでの宴会は続きました、実はこの時夜の宴会のゲームの二つがすでにスタートしていたのです。

富山市内では市内を流れる松川巡り遊覧船



富山 松川めぐりの遊覧船でポーズ

に乗っての観光でしたが、残念ながら季節を間違えたようです。この松川巡りの一番の季節は春らしく、初秋の10月は見るところもなく、盛り上がる事もなく終了。気を取り直し、魚津埋没林博物館見学もス

ルーし早めに今宵の宿、宇奈月温泉延対寺荘に到着。宴会迄の2時間、ゆっくり宇奈月の温泉に浸ることが出来たのでした。

夜7時、院長の乾杯の発声でほんとうの宴会のはじまりです。

温泉につかって車中のアルコールが飛



宇奈月温泉で大盛り上がりの宴会



んでしまったのか、皆さんぐいぐい行きます。お腹も、おいしい料理で一息ついて、酔いも好い加減になってきたところで、オペ室、谷看護師の宴会プロデューサーの出番です。まず、バスの中でのトイレ回数当ては残念ながら当てた人はなく、賞品はなし。次に宇奈月温泉到着時間当ては、見事ぴたり賞が出ました。次から次に楽しいゲームが続きます。じゃんけん新聞折りたたみゲーム、障害物競争と続き、各ゲームの一番ピリの男性がバツゲームを受ける事になるのですが、それぞれのゲームから3人を選出、仮装をするというものでした。3人の新聞折りたたみゲームの相方の女性に、二人羽織で化粧を念入りにされるのです。そして屏風の後ろで着替えを済ませ、3人が順に登場、最初に登場したのは、御歳70歳を超える守衛さんが、なにやら妖しい、髪は三つ編みでかなりミニスカートの

女学生の制服姿。次は院長が同じくミニスカートのカビンアテンダント姿で登場。お腹が邪魔になって上着が肌蹴そうになっています。

最期は放射線科の若手が胸の大きい女性の浴衣姿で登場。会場は大爆笑の連続となりました。最後に、各ゲームの表彰が行われ楽しい宴会は幕となりました。谷さんの名プロデュースぶりに感謝です。

翌朝、天候が心配でしたが、青空がのぞき、黒部トロッコ列車で樺平までの溪谷美



を満喫、温暖化のせいかわ10月半ばというのに紅葉はまだ山の上の方だけで、紅葉の溪谷美は見る事が出来ませんでした。樺

平で散歩や足湯に浸ったりとゆっくりと過ごす事が出来ました。

宇奈月に帰って来てから雨が降り出すという幸運に、院長の晴れ男伝説は生きていました。東山魁夷の絵を飾っているセレネ美術館に寄り、帰途についたのでした。帰りのバスの中も、来る時と同じように、守衛さん3人組の酒盛りが延々と続き、全員無事に神戸に到着、楽しい旅の終わりを迎えました。



## 平成23年 院内研究発表会 & 忘年会



研究発表会各賞受賞者と院長

毎年恒例の院内研究発表会、今年も各部署から14演題がエントリーされその研究成果を発表しました。

今年の「院長賞」には放射線科井川健一氏の発表が厳正な審査のもとに選ばれました。放射線科は昨年も院長賞に選ばれており、4年連続の受賞となりました。



研究発表が終われば忘年会となります。舞子ピラホテルでの忘年会は120名の職員が参加し今年一年の労を労い久我副院長の乾杯発声を皮切りに飲んで食べての大盛り上がりとなりました。なんといっても今年の目玉は、医事課の黒田さんをリーダーとする5人組ダンスチームのパフォーマンスでした。短期間で仕上げたとは思えない息の合った踊りが一年間の疲れも吹き飛ばしてくれたようです。彼女たちのパワーをもらって来年も頑張りましょうと藤井事務部長の万歳三唱で幕を閉じました。

左から渥美さん、永井さん、長岡さん  
黒田さん、伊丹さん、南さん

## 関心

## ボーナス…?

年末と言えばボーナス！先日当院でも年末のボーナス（賞与）が例年を上回る実績で支給されました。私が初めてボーナスをもらった時はまだ現金で、何となくそわそわして院長から一人ずつ手渡しの支給だったので記憶しています。今は銀行振り込みで明細書だけなのでイベント的には物足りない気もしますが嬉しいに変わりはありませんね。そんなボーナス、いつごろから始まったのだらうと思ひ調べてみました。

### まずはボーナスの語源…

ボーナスの名前の由来は、古代ローマ時代のギリシャ神話に出てくる、「Bonus Eventus（ポヌス・エヴェントス）」という神の名が起源で、成功と収穫の神様です。「ポヌス」を由来し、ラテン語で「良い」の単語「bonus」（ポヌス）に繋がり、これが「予期しない贈り物」という意味のボーナス（bonus）になったようです。ボーナスという言葉はギリシャ神話の神様の名前からきていたのですね。

### 欧米の習慣？

日本でもこのボーナスともいえる風習は古くは江戸時代から存在していました。江戸時代の武士の給与の中には「役職手当」として役高、役料、役金、役扶持、合力米、四季施（しきせ）といったものがあり、この「四季施」がボーナスに該当します。

四季施とは主人が低い身分の者に役料・役金の代わりに、務める上で必要な仕事着を支給する風習の事です。お金の代わりに着物をあげていたという事です。

四季施は「仕着せ」とも書き現在は「お仕着せ」という言葉として残っています。最



近では「お仕着せ」は「無理やり一方的に与えられる事」のようにあまり良い意味で使われないようです。

日本で欧米的スタイルのボーナスを行ったのは1876年（明治9年）、岩崎彌太郎が創設した三菱で、他社との競争に勝った際、社員の苦勞に報いるために給料とは別に臨時にお金を支給したのが最初で、このことを社員に知らせるための文章に「別紙（べっし）目録（もくろく）通り賞（しょう）与（あたえ）候（そうろう）…」とあったことからその臨時支給のお金は「賞与」と呼ばれるようになったのだそうです。多くの企業で当たり前のように支給するようになったのは戦後になってからです。



### ボーナスのシステムは

日本では年に2回、給料の何か月分といったシステムですが、世界各国はどうなのでしょう。

日本のように年〇回、何か月分と決まっている所は少ないようで、考え方としてボーナスは、利益が出るともらえるものというのが世界的常識の様です。アメリカのゴールドマンサックス証券のように、収益により多額のボーナスがでる場合もありますが、全体的に海外のボーナス事情は厳しいようです。

それと海外では公務員のボーナスは出ないようです。利益がでる企業ではないので当然と言えば当然です。日本経済団体連合会（経団連）の調べでは一般企業の平均は37万4800円という事ですが、公務員平均は60～70万円程度でした。まあ人の事はさておき世の中の厳しいボーナス事情を見れば、一定の評価を得た当院のボーナスは嬉しい限りです。

## 編集後記

忙しい師走、忘年会も重なり疲れが溜まって仕事中に大あくび、居眠り…どこかで見たような気が…。よく欠伸はうつると言うが、心理学的には仲間内での「心理的行動共有」らしい。欠伸くらいならうつっても構わないが、風邪やインフルエンザでは「行動共有」なんて言ってる場合ではない。寒さも本格的になり、炬燵でうたた寝して風邪をひかないように気を付けなければ。

今年一年何とか病欠もせずに一年過ごせたが、「ぶれいん」は病欠しているのではないかとと思われるほど遅々として発行が遅れ、皆さんには突然のように原稿依頼やら写真撮影やら…無理難題を押し付けている。また来年もご迷惑をおかけする事は必至ですが各部署の皆様、内容だけにはこだわって来年もやっていきますのでご協力よろしくお願ひします。（吉野）

